

MUSASHINO Vol. 90 *for* TOMORROW

特集 創立80周年記念
変革しつづける
武蔵野音楽学園の
80年を語る (第1部)

巻頭
音楽のある生活
三田誠広



武蔵野音楽学園 創立八十周年

July 2009
vol.90

音楽のある生活

三田誠広 ●作家／武蔵野大学客員教授●



三田誠広 Masabiro Mita

1948年、大阪生まれ。'66年、高校在学中に『文芸』の学生小説コンクールに「Mの世界」が入選。'73年早稲田大学文学部卒。'77年、「僕って何」で芥川賞受賞。'88年より早稲田大学文学部で小説創作の講座を担当。'97～'01年および'05～'07年、早稲田大学文学部客員教授。'09年より武蔵野大学文学部客員教授。現在、日本文藝家協会副理事長。日本文藝著作権センター理事長。著作権問題を考える創作者団体協議会議長。日本ペンクラブ理事。日本点字図書館理事。著作権情報センター理事。日本メンデルスゾーン協会理事長。

【主な著書】

●青春小説「いちご同盟」「春のソナタ」「永遠の放課後」(集英社文庫) ●歴史小説「桓武天皇」「空海」「日蓮」(作品社)「西行」(河出書房) ●エッセー「団塊老人」「父親が教えるソルカメ算」(新潮新書)「夫婦って何?」(講談社α新書)



▲ 武蔵野音楽大学入間キャンパス

18歳で文壇にデビューし、1977年、青春文学の傑作「僕って何」で芥川賞を受賞された三田誠広先生。作家として、大学客員教授として、日本文藝家協会副理事長を始めとするさまざまな要職に就かれご活躍の先生のもう一つの顔が「日本メンデルスゾーン協会理事長」。ご長男がピアニスト、奥様が武蔵野音楽大学出身、そしてご自身も音楽を愛する先生が、ご家族と音楽の関わり、音楽を学ぶことの意義について綴ってくださいました。

息子への音楽教育

いまから二十年ほど前に、「いちご同盟」という小説を書いた。中学三年生の少年が主人公で、音楽高校に進むか、ふつうの高校に進むか、迷っている。この作品は中学校の国語の教科書にも掲載されているので、多くの読者と接することができた。音楽に多少の関わりをもった人なら、さらにリア

リティーを感じてもらえるだろうと思う。

この作品を書いた時、わたしの長男が中学三年生だった。小説のモデルにしたわけではないのだが、ピアノを弾く少年であったことは事実で、実際に彼は都立芸術高校に進むことになった。いまはスペインのサラゴサとい

う街にある高等音楽院にピアニストとして勤務している。作品の中で、主人公の少年がさまざまなピアノ曲を弾くシーンが出てくるのだが、その曲はすべて、長男が当時、課題として弾いていたものだ。

家の中にピアノやバイオリンの音が響いている。そんな家庭にあこがれをもっていた。それで長男にはピアノ、次男にはバイオリンを習わせた。次男は中学で止めてしまったのだが、絶対音感をもっていて、一回聴いただけの曲を、ケータイの着メロとして伴奏付で打ちこむ特技をもっている。楽器を習ったのが役だったのはその時だけで、クラシック音楽そのものに興味をもてなかったようだ。次男は理科系の大学を出て、いまは企業の研究所に勤務している。

長男は自己顕示欲の強い子どもだった。そのままでは、わたしと同じように、小説家を志すのではと心配だった。どんな芸術でも同様だが、才能と努力と幸運の三拍子が揃わなければ、プロとして成功を収めることはできない。わたしは才能があったかどうかはわからないが、それなりに努力をしたし、幸運にも恵まれた。よい編集者と出会い、的確なアドバイスを受けながら、プロの作家になるまで見守ってもらえた。しかしそんな幸運は、めったにないことだ。だから、わたしは長男が文学に興味をもつことには危惧を感じた。音楽は、適度に楽しく安全な自己顕示だと思われた。楽器の演奏は、百パーセントの創

作ではないが、原テキストに演奏家が独自の彩りを加える創作行為といえるだろう。実際に長男の演奏はかなり個性的なもので、指導にあたった先生も苦勞されたことだろう。

長男のヨーロッパ留学

長男がまともに演奏できるようになったのは、ブリュッセルに留学したおかげだと思っている。ベルギーという国は、北がオランダ語圏、南がフランス語圏で、ブリュッセルはオランダ語圏の中に、離れ小島のようにフランス語圏が浮かんでいる街だ。長男はフランス語を勉強して、パリに留学したかったようだが、たまたまどこかの夏期講習で出会ったベルギーの先生に



▲ レッスン風景 (K.ガネフ客員教授)

惹かれて、ブリュッセルの王立音楽院に進むことになった。それはブリュッセルでは知らぬ者がいないという有名な先生だった。

その先生はフランス語をしゃべり、フランス音楽のセンスをもちながら、血筋はオランダ系で、ドイツ人と同様のきっちりとした合理的な教え方をした。感情のおもむくままに弾くのではなく、事前に最も合理的な指の運びを研究してから、そこに自分の個性を加えていくという教え方が、長男にはよかったようだ。日本の音楽教育もドイツの影響を受けているから、そういう注意は日本にいる時から受けていたはずだが、その先生の実際の演奏を聴いた上で、その裏に緻密な計算があることを知って、長男の考え方が変わったのだろうと思う。

留学して一年もしないうちに、バルセロナの有名なコンクールで、長男は二位になった。日本にいるころには、そんなコンクールに出場することすら想像できなかったので、長足の進歩といえるだろう。しかし長男がスペインのコンクールに出たことには、べつの理由があった。スペインの女の子と仲良くなっていたのだ。

長男は大学の先輩の紹介で、インド人が経営している音楽院の学生向けアパートに入った。グランドピアノとベッドと小さな台所セットがぎっしりつまったワンルームだ。間取りが同じなので、自分がピアノを弾いていると、真上の部屋のピアノが頭の上から響く。自分のピアノの音が聞こえないほどなので、長男は母親(わたしの妻)に電話をして、グランドピアノの足の下に敷くゴムのマットを送らせた。届いたマットをもって長男が真上の部屋に行くと、そこにはスペイン美女がいたというわけだ。

長男は王立音楽院を卒業すると、スペインの人になった。いまでは三人の女の子の父親で、わたしと妻にとっては、孫にあたる。わたしたちも、毎年のようにスペインに行くことになった。嫁さんは五人兄弟の末娘なので、わたしたちが行くと親戚が集まってくる。そういうわけで、遠い異国におおぜいの親戚ができることになった。人生というものは、まったく、何が起るかわからない。

わが子を伴奏者に

わたしが長男にピアノを習わせたの

・音・楽・余・話・ ステージでの緊張をいかに克服するか

「真剣な練習を怠ると、影響はすぐに次の演奏に現れる。一日怠ると自分自身がそれに気づき、二日怠ると友人や同業者が気づく。1週間怠れば全ての聴衆が気づく。」・・・アントン・ルービンシュタインはこう言ったそうである。

また、ロシアの著名な音楽学者グレゴリー・コーガンは、演奏会に臨む心構えとして「普段の生活習慣を突然変えるな、特別なことをするな」と言った。

スビャトスラフ・リヒテルは、およそ身なりに構わない人物で、ステージの

服装にも無頓着であった。「履きなれた靴の方がペダルを感じやすい」という理由で、履きたびれた粗末な靴で演奏会に臨み、ある時など、靴下の穴を指摘したところ、マジックインクで穴の部分黒く塗り、「これでよし」とステージに向かっていった。

緊張には二種類ある。すなわち一つは感情を麻痺させてしまう緊張、もう一つは感情を高揚させる緊張であり、私が思うには、演奏家は緊張を押し殺そうとすることよりも、むしろ後者の

緊張感を積極的に招くよう努めるべきである。全ての芸術表現は、感情の高まりから生れるからである。ステージでの緊張をいかに克服するかは、いかなる演奏家にも常に付き纏う難題であるが、先にあげた巨匠たちの名言は、演奏を学ぶ者に対し、日々、芸術表現の本質に目を向けて音楽と共に生きることの大切さを示唆してくれている。

(訳：重松万里子)

コンスタンティン・ガネフ

(本学客員教授)

は、ささやかな夢があったからだ。わたしは子どものころから楽器のレッスンを受けるといった家庭環境ではなかったのだが、音楽は好きで、中学生の時から、個人的にクラシックに興味をもった。楽器はできないが、歌うことはできる。シューベルトの「冬の旅」などを、独学で歌うようになった。それで、自宅に伴奏者がいればと考えた。実はわたしの妻は音楽大学を出ているのだが、ピアノ科ではないといって、伴奏はしてくれなかった。長男が小学校の高学年になった時、わたしの夢は実現した。長男のピアノの技量が、シューベルトを弾けるようになったのだ。しかし、わたしの幸福は、長くは続かなかった。中学生になると、長男は伴奏をしてくれなくなった。さらに技量が上達して、オヤジの下手な歌につきあうのを拒否するようになった。

まあ、それはいいのだが、長男がスペインで暮らすようになったことは、わたしにとっても、妻にとっても、いささか寂しいことではあった。しかし考えてみると、それは必然的なことかもしれない。音楽に国境はない。だから世界のどこにいても、活躍の場はある。それだけでなく、日本の音楽教育のレベルは世界一といってもいいほどに高い。それだけに、日本でプロの演奏家

や指導者になるのは、世界一難しいのかもしれない。長男の高校や大学の同級生でも、留学したまま欧米で暮らしている演奏家は少なくない。それは喜ぶべきことではあるのだが、家族としては、少し寂しい。

メンデルスゾーンのこと

ところで、話はかわるのだが、わたしは日本メンデルスゾーン協会という組織の理事長をつとめている。ボランティアだけで活動しているささやかな団体なのだが、ライブツィヒに短期留学生を送り出す活動をしているメンデルスゾーン基金という組織に協力して、留学生の帰国演奏会を主催している。今年のはじめにその第一回のコンサートが開かれた。昨今の経済事

情の悪化で、二回目のコンサートがいつ開けるか未定なのだが、新しい才能との出会いの場をこれからも設定していきたいと思っている。

メンデルスゾーンというのは、魅力的な作曲家だ。曲が有名な割に、その生涯については、よく知られているというわけにはいかない。美しいメロディーラインは誰でも知っているのだが、ほぼ同時代のワーグナーが推進した民族的な高揚をもたらす音楽とは対照的な、ピュアな音楽性だけを追求したメンデルスゾーンの音楽観が、時代の波に乗りきれなかったということがあるし、ユダヤ系だということで、その後起こったファシズムの潮流によって押しつぶされたということもある。

しかし、完全に世の中から忘れ去られたバッハの「マタイ受難曲」を、弱冠二十歳の時に自ら楽譜を発見して、百年ぶりに復活上演したという功績だけ

平成20年度 音楽学部卒業生による 新人演奏会

平成21年5月15日 津田ホール



石川恵理(コントラバス)



吉田綾子(トランペット)



齋藤誠二(フルート)



福山絵里(ソプラノ)



込山由貴子(ソプラノ)



鈴木雅之(ピアノ)



金子 淳(ピアノ)

でも、音楽史に特筆される人物であるし、作曲家が自作を指揮する場合を除いてはバイオリンの首席奏者に合わせて演奏するのが通例だったオーケストラに、はじめて指揮者という存在の重要性を示したのもメンデルスゾーンだったと伝えられている。

わたしは歴史小説を何冊も書いているし、さまざまな分野の歴史というものに興味をもっている。たとえば物理学とか数学とか、一般の人々が苦手になっているような分野でも、発見や発明をした人物の人生を眺めていくと、それぞれにドラマがあることがわかる。音楽という分野も同様だ。ただの通史ではなく、作曲家が生きた時代背景や、生涯の詳細を知ることで、作品の理解が深まり、それがより深く感動的な演奏につながっていくということもあるだろう。

芸術家の果たすべき責任

最後に、重要なことを書いておこう。人間は主体として、この世に存在しているということだ。学校にいと、クラスの中にいる一人の生徒にすぎないという無力感を覚えると同時に、だか



▲ 武蔵野音楽大学室内合唱団

ら責任を負わされることもないという安心感に包まれてしまうことがある。しかし、あたりまえのことだが、自分にとって、自分というものは一人しかいない。とくに「芸術」に関わる時には、人は孤独に耐えなければならぬし、自分がやる以外にないという責任を負わされることになる。それができない人は、芸術家にはなれない。だがこれは、芸術に限ったことではない。どんな仕事でも、その仕事を果たしている瞬間には、他の誰にも代行できない責任を負うことになる。結婚して互いのパートナーになり、子どもを育てる場合も同様だ。だから、責任を負

うということから逃げてはいけぬし、孤独になることを恐れる必要もない。

わたしは二人の息子に楽器を習わせたことを、よかったと思っている。彼らは幼いころから、楽器を演奏する訓練を受けた。楽器と向き合っている時、人は孤独に耐えなければならぬ。与えられた課題を達成するためには、自分を励まし、自分をコントロールし、責任をもってやりとげる意志の強さをもたなければならぬ。それはただ楽器の演奏が上手になるというだけではなく、人生そのものに意欲的に取り組む鍛錬をしたのだとわたしは考えている。

音楽の万華鏡 ⑧

終戦の混乱が落ちついてきた1950年ごろ作曲家グループが次々と結成されて作品を発表し始めます。芥川也寸志、黛敏郎、團伊玖磨をメンバーとする「3人の会」はオーケストラ作品を発表するという点で、ひときわ華やかな存在でした。「3人の会」の第2回作品展にあたる1955年のコンサートでは、芥川《嬉遊曲》、黛《トーン・プレロマス55》、團《管弦楽組曲「シルクロード」》が、それぞれの作曲者の指揮と東京交響楽団により初演されたのですが、3人の作品のほかに、アントン・ウェーベルンの《交響曲》が日本初演されました。音列作法により音が点々と出沒するウェーベルンの《交響曲》に聴衆はとまど

ウェーベルン《交響曲》の日本初演

ったようで、チューニング中なのだろうと思っているうちに終わってしまった、と回想する人もいます。「(ウェーベルン《交響曲》)の切りつめた美しさに較べて3人の会の美は説得力を持っていると考えたとすれば誤解である」と、「3人の会」の作品に批判的な批評もありました。

「3人の会」は、むしろ自分たちと同じ志をウェーベルンの《交響曲》に見て取ったのでしょう。すでに独自の語法でオーケストラ作品を書きながらも、それを交響曲の器に盛ることで、音の交響がいっそう豊かになっていくような交響曲を目指していたのだと思われます。その後、黛は《涅槃交響曲》を書き、芥

川は《エローラ交響曲》を書き、團は《交響曲第2番》を書き、それぞれは日本の交響曲史上に残るといっただけでなく、海外の交響曲に対してもインパクトを持つ作品となっています。1955年には、日本にとって初の外来オーケストラとなる「シンフォニー・オブ・ジ・エア」が、ベートーヴェン、ブラームス、チャイコフスキーの交響曲ほかの曲目をもって来日しています。そのダイナミックな響きに聴衆は圧倒されたようですが、日本の聴衆が交響曲に、限られたイメージを抱かないよう、ウェーベルンの《交響曲》は警鐘を慎ましく鳴らしていただいたでしょう。

檜崎 洋子(本学音楽学教授)

変革しつづける 第1部 武蔵野音楽学園の80年を語る



武蔵野音楽学園 創立八十周年

昭和初期、戦争の時代、戦後の復興期、そして今日へ続く発展の時代へと武蔵野音楽学園は歩み続け、今年、創立80周年を迎えました。どの時代も、教師、学生、そして応援して下さる方々の真摯な努力があり、常に時代の先端を切り開き、現在の充実した学園があります。先輩方、先生方のお言葉を含めて、その歴史を振り返ります。



菊池初美先生

昭和22年武蔵野音楽学校
師範科卒業（声楽専攻）、
昭和24年同研究科修了



栗山和子先生

昭和22年東京音楽学校本
科声楽科卒業、昭和24年
同研究科修了

仮校舎での創立から戦後の再スタートへ 〔1929(S4)年～1945(S20)年〕

武蔵野音楽学園は建学の精神「和」をもととしています。創立者福井直秋先生に音楽学校の設立を懇願した学生達と、共鳴する教職員、無私の協力者の「和」の心こそが、全ての活動の原動力になるとの信念からでした。

’29年に誕生した武蔵野音楽学校は、’32年、私学で初の音楽の専門学校¹⁾に昇格、’43年には教員無試験検定取扱い許可校となり、全ては学生達のためにと、音楽学校の先頭を走り続けています。’35年には世界的ソプラノ歌手三浦環が来校、その翌年にはドイツの音楽親善使節として来日したウィルヘルム・ケンプ教授を迎えています。創立わずか10年余りで、国内外

の世界的音楽家を迎えるまでに発展したのです。

しかし、日本は戦争の時代へ。音楽を学ぶなどは文弱の徒、武蔵野音楽学校を廃止せよ、との文部省の命令がきます。これを断り、武蔵野女子音楽学校として、かろうじて学校の存続を守るという劇的な場面もありました。

’45年、8月15日に敗戦によって太平洋戦争が終結した時は、一面の焼け野原の中で、幸い戦火は免れたものの校舎は荒廃し、食糧もなく、交通の断絶した中で、わずか2ヵ月後に授業を再開したのです。

栗山 私は戦後’65年に講師となりましたので、戦前のことはまるで知らないの



▲ 創立時の正門と本館



▲ 野外教練（1936年）

授業風景（1930年）



▲ 慰問演奏(1944年)

ですが、今度出版された「武蔵野音楽大学 伝統とチャレンジの歩み」を読ませていただき、直秋先生の偉大さに向かれました。すでに大正時代に「音楽教育は善の教育ではない、美の教育である」とおっしゃっています。私はこれを、音楽は美である、と読ませていただき、大変感銘を受けました。

丸山 そうですね。西洋音楽の美を普及させたいということと、当時日本は軍国主義になっていましたから、学校存続のためにも、その時代性との間で、大変な葛藤と難しい舵取りをされていたと思います。

川 直秋先生の音楽に対する情熱とビジョン。それを支えた大勢の方々の献身があって、創立しました。しかしすぐに日本は戦争の時代に向かいます。戦時中は、各学校に軍人が配属され、軍事訓練が行われます。木銃を持たされて、銃剣術の訓練も行われたそうですね。武蔵野はそんな戦争の時代を乗り切ってきたわけですが、当時の思い出はありますか。

及川 そう、「今どき音楽をやっているのは非国民だ、国賊だ」などと言われ

た時代で、学校の維持にどれだけの苦労があったか、偲ばれますね。

菊池 当時勤労働員というのがありまして、軍需工場へ行って働かされたのを覚えています。私などは慰問と言って、兵隊達の所へ歌を歌いに行かされました。「見よ、東海の空明けて」などを歌いました。

栗山 慰問にはアコーディオンを持って行きましたね。学生時代はそんなことばかりだったような気がします。戦争も終わりに近づくと毎日空襲があり、戦争が終わって、「ああ、今日は空襲がないんだ、死なないですむ」とホッとしたのを覚えています。

菊池 戦争が終わって、コーラスができ、やっと男女一緒に声を張り上げて歌えるのが嬉しかったな。

川 3月の学年末を待たずに、繰り上げ卒業というのもあったそうですね。男子は卒業と同時に徴兵され、先輩達の中には随分戦死された方もいらっしゃると思います。

丸山 当時の有名な逸話は、終戦の年('45年)に空襲を避けるために楽器や図書等を富山へ疎開させた話がありますね。これは第2代学長となられる福井直弘先生が指揮をとられたそうですが、なんとか貨車6輛を確保して、江古田から池袋へは書類や楽器を大八車に載せ、当時学校に残っていた2~3人の男子生徒と運んだそうです。おそらく、あの戦争末期にこれだけの楽器、図書類の疎開を成功させたのは武蔵野だけだと言われています。



奥田 操先生

昭和26年武蔵野音楽学校本科卒業(ピアノ専攻)、昭和28年同研究科修了



及川 慥先生

昭和30年武蔵野音楽大学卒業(声楽専攻)、昭和31年同専攻科修了



丸山 徹薫先生

昭和31年武蔵野音楽大学卒業(ピアノ専攻)、昭和32年同専攻科修了



川崎 隆先生

昭和34年武蔵野音楽大学卒業(ピアノ専攻)、昭和35年同専攻科修了

音楽学校として初の大学へ、そして校舎建設へ 〔1946(S21)年～1961(S36)年〕

学校は戦火をまぬがれましたが、社会は命をつなぐのがやっと。食べる物もなく、交通機関は止まり、町には浮浪者があふれている状況でした。学

生の食糧・住居の確保、荒廃した校舎の手直し、備品の整備・確保と多くの難題をかかえていました。しかし、この困難な時代にもかかわらず、直ちに

再建と発展の独自の歩みを始めていたのです。新学制による音楽大学移行へ全力を傾注します。

大学移行への準備の中でも、男子寮²⁾、図書館、書庫、渡り廊下、守衛室の5棟を増築し、教育内容に施設にと大車輪の改革が始められたのです。'49年、新制大学の認可を受け、わが国初の音楽大学が誕生しました。奇しくも、武蔵野音楽学校創立20周年にあたっていました。

そしてこの頃、世界的な規模と設備を持つ音楽大学建設という夢が同時に芽生えていたのです。

'55年、現在の1号館、'56年に2号館、'57年に3号館、そしてベートーヴェンホールの完成('60年)。翌'61年にはホールに設置したパイプオルガン披露式及び記念演奏会が、巨匠ウィルヘルム・ケンプを招いて行われました。

音楽教育に常に最高のものを、と求め続け、実現してきた、福井直秋先生の努力が実った瞬間でした。



▲ 1号館建設現場の福井直秋先生（1954年）



▲ オルガン披露演奏を行うウィルヘルム・ケンプ先生（1961年）

栗山 また今度出版された本の内容にもなりますが、'45年の終戦後、疎開先の富山で直秋先生は「再建日本と音楽」という論文を書かれています。「(略)斯くして芸術の振興は再建日本にとっては国の内外両面に対する緊急かつ根本的要務である。(略)直裁に人間の本能に訴え、和親相愛の心情を昂め、崇高純美の気魄を培い得る力を最も大きく内包するのは音楽芸術であるといえよう」という内容で、先生の考えは戦前戦後も一貫していますね。この心を持って、ただちに学校の復興を始められたのですね。

丸山 そうですね。直秋先生はまた「優れた音楽家や演奏家を育てることだけが音楽教育ではない。音楽を広める教師を育て、国民がそろって音楽の心を知り、平和を望む社会の文化的、芸術的な土台を創ることが大切だ」とおっしゃっています。これは先生が教育者になられてから、生涯変わらぬお考えで、今の武蔵野に受け継がれている大切な心です。

川 そして日本はまだまだ大変な時代だったわけです。私が入学したのは'55年ですが、その前年に受験講習会にきた時、練習室に電球がないのです。電球は自分で持ってきて、練習が終わったら、自分の電球をはずして、また次の人が自分の電球を持ってくる、という時代でしたね。

奥田 暖房がなく、教室には直径2mくらいの大きな火鉢があり、真っ赤な炭が燃えていましたね。炭火はあっても教室は広いから全然暖かくないんですよ。でも直秋先生が「赤い火を見れば、人間は暖かく感ずるのだ」とおっしゃった。赤い火を見て暖かいと思いなさいとおっしゃった



▲ ピアノに向かう福井直秋先生（1961年）

のです。

及川 私は'51年に入学していますが、輸入楽譜などはほとんど手に入らない時代でした。歌の楽譜をもらうと、国産のは原調しかないのです。私はバリトンですから、移調しなければならぬ。移調して書いて、最初はすごく時間がかかって、半ページで30分くらい。だんだん早くなって15分。それでも不便などとも思わなかった時代です。

奥田 当時直秋先生はホールに学生達を集めて、毎週のように訓話をされておりましたね。とても長くて、中には迷惑と感じる学生もいたと思いますが、当時の学生ですから、真面目に聴いていました。

先生はお話の原稿を三越の包装紙の裏に書かれるんです。本当に物を大切にされ、節約されるんですね。そうして校舎などをつくる時には思い切って費用をかける。後年になりますが、テレビもお持ちでなくて、卒業生がお贈りしたほどです。

丸山 話の内容はタバコの吸殻をやたらに捨てるな、から始まって時間厳守や礼儀など、現在も武蔵野生活の指針となっている「礼儀、清潔、時間厳守」いわゆる「3P主義」でしたね。人間形成の場としての学園のモットーを、常に話しつづけていました。

奥田 昔から武蔵野では教員はもち

ろんですが、事務職員が学生に大変親切でした。全ての関係者が教育に深く関心を持ち、関わり合っていました。これも直秋先生のお考え、教育に対する姿勢が、全学的になっていた証拠ですね。この精神は今でもしっかり受け継がれています。

奥田 もう一つ、'62年に「福井直秋先生のご健康をお祝いする会」が開かれました。列席者は300人余り。その会で玉川大学学長の小原国芳先生³⁾が祝辞を述べられています。お二人は戦前から尊敬し合う教育者であり、共に全人教育、人間形成をかかげられ、この祝辞でも、直秋先生の教育観、功績を称えられたのが印象に残っています。両先生による「交換講演」もなさいましたね。

丸山 多くの方々の情熱と志で教育を引っ張った時代でした。しかし物質的にはまだまだ貧しかった。ですから1号館が出来たとき、本当に立派で、皆びっくりしましたね。鉄筋コンクリートの建物自体が珍しかった時代ですから。建設から半世紀たっていますが、全く問題なく使っています。よほど丁寧に造ったんですね。

私が伺っている話では、直秋先生は「ケチなことをして、50年後、100年後に支障を来すようなものは造らぬこと。学生を美しい環境で勉強させるために、出来るだけ内部をきれいに仕上げること」とおっしゃっていたようです。さらに学生ホールにスタンドグラスを設置するとき、「学生が割ることが出来ぬほど立派なスタンドグラスを使用するよう」と命じられたのも有名な話ですね。

川 ベートーヴェンホールのパイプオルガンが完成して、ケンプ教授の記念の演奏がありました。あの演奏はすごかった。バッハでした。「神の声、それはオルガンです」に始まる祝辞を述べられています。そしてアンコール演奏がありました。ケンプ先生は即興演奏の名人ですが、こ



▲ ベートーヴェンホールを飾るスタンドグラス

のところ即興演奏はしていないが、お祝いとして久しぶりになさる、ということで直秋先生にテーマを出すようにおっしゃったと思います。で、直秋先生が「君が代」のテーマを出されたのです。いま、もう一度聴きたいと思うのですが。

及川 ベートーヴェンホール完成の前の話になりますが、'56年、モーツァルト生誕200年祭のときに、日本青年館で「フィガロの結婚」を上演しました。'54年にボルヒャルト先生がいらしてオペラ講座をお作りになって、一步一步の歩き方からご指導いただきました。私はその時、伯爵を演じてとても光栄でした。あの時から武蔵野のオペラの伝統が始まったのです。先日の80周年記念オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」が素晴らしかったのも、まだ学生のオペラなど考えられなかった時代からの伝統があるからですね。

教育内容の充実と共に、江古田キャンパスの整備、建設は'55年から約15年にわたって続きます。そしてその間にも、すでに武蔵野は新しい時代に向けて、人間キャンパスの建設計画が進められていました。次号では'62年から'79年、音楽教育のさらなる充実と人間キャンパスの開設から今日に至る道をお伝えします。

注釈

- 1) 武蔵野音楽学校設立にあたって、その経営方針は「生徒中心、その将来への発展」であった。当時私立の音楽学校はすべて各種学校。卒業生に対する教員資格その他の恩恵は皆無だった。そこで、第一の目標を専門学校へ昇格することに定めた。わが国初、という産みの苦しみの中で、専門学校として認可を受けた。
- 2) 武蔵野での伝統として、学生の生活を支援する、という考えがあった。女子寮は戦前からあり、終戦直後「むらさき寮」は今の第二駐車場にあった。多くの学生が寄宿し、今でも当時の思い出に花を咲かせる卒業生は多い。「むらさき寮」という寮名は、東京帝国大学教授の文学博士、藤村作(ふじむら つくる)の「むらさき」という著作から命名された。むらさきはかつて武蔵野の地に多く自生した、白い可憐な花である。藤村の妻すえは、東京音楽学校で福井夫妻と親交があり、夫妻そろって武蔵野の創立を援助した。
- 3) 小原国芳(おばら くによし)は武蔵野音楽学園創立と同時期に、玉川学園を創設。全人教育を掲げて、独自の自然科学教育を実施。教育による人間形成を目指し、個性豊かな昭和時代の代表的教育者であった。



▲ 江古田キャンパス

桜の季節の多彩な学園行事

桜花に彩られた各キャンパスには、期待を胸に新生、新入園児たちが大勢集まり、大学、附属高校、3つの幼稚園それぞれで、平成21年度の春の行事がスタートしました。

4月14日、入間キャンパスでは晴れて音大生となった新1年次生のために、大学、先輩たちによる歓迎会が開催されました。担任教員を迎えてのク



ラス交流会、セレモニー&パーティー、クラブPRなどが行われ、続くコンサートでは、3月に大学を卒業したばかりの先輩たちが、清新な演奏を披露し、新生を歓迎しました。

附属高校では、5月2日、絶好のコンディションのもと、新緑映える入間キャンパスのグラウンドで体育祭が行われ、クラス対抗リレーや棒引きなど各種目で、学年を超えた熱戦を繰り広げました。また29日には、1、3年生が飯能の

清流名栗川のキャンプ場に出かけ、班ごとに分かれて飯盒すいさんに挑戦。爽やかな風が吹き抜ける中で、思い思いに工夫したメニューを堪能しました。

第一、第二、武蔵野の各幼稚園では、春たけなわの4月下旬から5月にかけて、それぞれ公園や遊園地へ遠足に行きました。年少、年中組は親子遠足、みんなで広い芝生の上を転げまわったりゲームをしたり…。笑顔溢れる楽しい一日を過ごしました。



春期公開講座シリーズ&演奏会



平成21年度の開始とともに、本年度も多彩な公開講座、演奏会が始まりました。シリーズのトップを飾ったのは国内外で広く活躍しているハーピスト、井上久美子本学特任教授に加え、共に本学で学んだ千田悦子、奥田恭子の3人による『ハープの饗宴』(5/9 シューベルトホール)。ハープ特有のデリケートな表現力と色彩感を生かしたバロックから現代にいたる作品を、ソロ、アンサンブルで披露。“饗宴”の名に相応しい華やかなステージで観客

を魅了しました。

続いて、ジュリアード音楽院の学生メンバーによるニュー・ジュリアード・アンサンブルが、創設者のジョエル・サククス氏とともに来学しました(6/10モーツァルトホール)。「アメリカ現代音楽の系譜～新しい耳を拓く実験音楽小史」のテーマのもと、サククス氏による作品解説を交えた興味深い演奏会を展開。テニー《エオリア旋法で》では、本学特修科在籍生も共演し、春秋に富む両学の学生達に会場から温かい拍手が送られました。また在学生にとって、ともに音楽を志す海外の同世代の演奏は、大きな刺激となり感性の視野を広げる貴重な機会となったことでしょう。

6月23日にはクルト・グ

ントナー・トリオ演奏会(Vn:クルト・グントナー、Vc:クレメンス・ドル、Pf:ドル恵理子)がトッパンホールで行われました。シューベルト《ピアノ五重奏曲 イ長調「ます」》では、ツォルト・ティバイ(Cb)、小泉理子(Va)の両氏が加わり、それぞれの巧みな技術と音楽性が相俟っての至極のアンサンブルを奏でました。

この他、平成20年度本学卒業生、





大学院修了生による演奏会が津田ホールで、さらにバッハザールでは修士課程、ヴィルトゥオーソ学科の学生による演奏会が次々と開催されました。出

演者はこれまでの努力の成果を存分に発揮、それぞれが若さ溢れる演奏を披露し今後の勉学への新たな指針を手に入れました。

※6月3日バッハザールでコンサートを予定していたルーサーカレッジ・コンサートバンドは、**新型インフルエンザ**の影響で来日中止となりました。

学園創立80周年記念オペラ公演開催

本年、本学園創立80周年記念行事の一環として、武蔵野音楽大学オペラ公演が、去る4月29日、30日、5月2日、3日の4回にわたり江古田キャンパスのベーターヴェンホールで開催されました。

モーツァルト「コジ・ファン・トゥッテ」一全2幕、イタリア語上演(字幕付き)、のニュープロダクション。指揮は、本学の北原幸男氏、演出は同じく恵川智

美女史、内外のオペラ界で活躍している教員・卒業生と学生のオーディション合格者によりダブルキャストを組み、それぞれが魅力ある持ち味を存分に発揮した楽しいステージとなりました。

明るいナポリのシーンの中で繰り広げられる複雑な人間模様を、様々な組み合わせのアンサンブルを駆使して

表現していく難易度の高い作品ですが、緻密でかつユーモラスな演出と、モーツァルトの美しい音楽を見事に表現したキャストとオーケストラの熱演により、3時間にわたる楽しい舞台を繰り広げました。

連日、満員となった会場から万雷の拍手が送られ、記念オペラ公演は成功裏に終了しました。



来年度修士課程にヴィルトゥオーソコースを開設

平成18年度、本学音楽学部に「ヴィルトゥオーソ学科」が開設され、その学習成果が実っているところですが、平成22年度から大学院修士課程の器楽専攻、声楽専攻それぞれに「ヴィルトゥオーソ

コース」を開設します。カリキュラムの特長は、専攻実技に重点を置いた一層高度な専攻研究によって、修士の学位を授与します。受験資格は、広く大学卒業(見込)者とし、必ずしもヴィルトゥオーソ

学科を卒業(見込)した者のみを対象としたものではありません。

学生募集については、平成22年度武蔵野音楽大学大学院入学試験要項をご参照ください。

教員免許状更新講習について

武蔵野音楽大学では、教員免許更新制の実施に伴い、平成21年度から免許状更新講習を、文部科学大臣の認定を受けて開講いたします。本学では、小

学校、中学校および高等学校の教員を対象として、必修領域「教育事情」12時間と選択領域「教科指導」(音楽関連教科)18時間、合計30時間の講習を行い

ます。講習期間は平成21年8月1日～8月5日、武蔵野音楽大学江古田キャンパスで開催します(今年度の受講申込みはすでに締め切りました)。



●表紙の顔

高橋美智子さん



群馬県出身。小学校6年でNHKからソロデビュー、レギュラー番組を持つ。東京藝術大学附属音楽高校を経て同大学卒業、同大学専攻科修了。

1973年にオランダ・ガウデアムス国際コンクールで日本人として初めて第1位優勝、併せて国際現代音楽賞を受賞。以後、数多くの海外での活躍の中で、彼女のために書かれた武満 徹唯一のマリンバ協奏曲「ジティマルヤ」のロッテルダムフィル定期演奏会での世界初演や、ホーランドフェスティバルでのオランダ放送響及びオランダ室内管と共演の「独奏打楽器とオーケストラのためのSpatial Music」(トン・デ・レーウ)、ニューヨークでの「トッカータ」や「ビジョン」などは特に絶賛を浴びた。

国内では、幅広くメディア方面で活躍する一方、マリンバ協奏曲「マリンバと3群のオーケストラのためのオシレーション」(松平頼暁)が高橋美智子+都響の世界初演で第28回尾高賞を受賞、受賞記念にN響定期演奏会でソリストを務めた。またリサイタルや新日本フィル、東響との共演による「高橋美智子マリンバ協奏曲の夕べ」では2回の芸術祭優秀賞、2001年第19回中島健蔵音楽賞を受賞している。

CD、DVDの分野ではベストセラーとなった「高橋美智子・驚異のコントラバスマリンバ」(CBSソニー)をはじめ26タイトルが発売となり、'98年には日本オーディオ協会賞「第三回音の匠」を受賞している。現在、武蔵野音楽大学教授。

今後の抱負:これまでの演奏経験を活かし、武蔵野音楽大学ならではのレッスンをマリンバ・打楽器において行っていきたい。

日本高等教育評価機構より認証評価の認定

武蔵野音楽大学は、平成20年度に(財)日本高等教育評価機構の認証評価(いわゆる第三者評価)を受審し、平成21年3月24日付けで「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている」と認定されました。

評価は建学の精神、学生、教・職員、管理運営等11の基準により行われました。平成20年度に同機構の評価を受審した58大学の結果は、すべて評価報告書により同評価機構から文部科学大臣に報告され、一般にも公表されています。

これらは、「優れた点」「参考意見」「改善を要する点」の3つの視点から指

摘され、本学は受審大学中、最も多くの22項目にわたる「優れた点」を評価されました。そして総評において「芸術の基礎は人格にあるとの考えから、教育方針として『音楽芸術の研鑽』とともに『人間形成』を掲げ、これに高い位置づけを与えていることはすぐれた教育理念である」と評されたことは、本学にとって大きな自信につながりました。

「認証評価は目的ではなくプロセスである」とも言われ、自らの継続的な改善・改革の努力がとりわけ重要であり、この度の受審を契機として、本学はこれからもPDCAサイクルを実践し、その成果を更なる発展に生かして参ります。

創立80周年記念図書発刊

学校法人武蔵野音楽学園創立80周年を記念して、「武蔵野音楽大学 伝統とチャレンジの歩み」と題した冊子が発刊されました。内容は、「学長インタビュー」、「創立者福井直秋の教育理念と伝記」、「武蔵野音楽大学まるわかりガイド」など、多彩な内容がコンパクトな新書版(255ページ)にまとめられています。

ご希望の方は1冊500円(郵送の場合は送料共700円)にて販売しております



お申し込み・お問い合わせは

〒176-8521 東京都練馬区羽沢1-13-1
武蔵野音楽学園広報企画室 TEL.03-3992-1125

ので、直接下記にてお求めいただくか、以下の電話にてお申し込みください。またホームページからもお申し込みいただけます。



武蔵野音楽大学同窓会平成21年度全国総会のお知らせ

武蔵野音楽大学同窓会平成21年度全国総会が来る8月23日 兵庫県神戸市 ホテルオークラ神戸を会場に開催されます。16時から総会、引き続き記念演奏会(永岡信幸氏によるピアノ独奏)、17時30分からは懇親会が行われます。翌24日には、2コースの観光が企画されています。14年前の地震による大災害から飛躍的な復興をした、元気と情熱あふれる神戸をご覧ください。ご案内は既にお手元に届いていることと思います。どうぞ万障お繰り合わせの上、多くの皆様のご参加をお待ちしております。



幼稚園・附属音楽教室のウェブサイトリニューアル

武蔵野音楽大学附属幼稚園と附属音楽教室のサイトをリニューアルしました。

第1・第2・武蔵野各幼稚園の新サイトでは、かわいい動物たちが楽器を奏するイラストをアイコンに使うなど、より親しみやすいデザインに変更。資料の請求がウェブサイトから直接できる他、新着情報、イベントなどのお知らせを迅速に表示できるシステムを新たに採用して、楽しい催しや園児の保育の様子をリアルタイムにお届けします。

また附属音楽教室のリニューアルでは、新着情報、音楽教室主催のコンサ

ートや体験教室などのイベントがトップページからすぐにアクセスできる他、特色、コース案内、江古田・入間・多摩各音楽教室の行事、ミュージックキャンプの様子、在室生のコンクール入賞情報や在室生からのメッセージなど多彩な内容となっています。また入学試験要項などの資料も直接請求できるようになりました。ぜひご覧ください。

◎武蔵野音楽大学附属幼稚園
ウェブサイト

<http://www.musashino-music.ac.jp/kindergarten/>

◎武蔵野音楽大学附属音楽教室
ウェブサイト

http://www.musashino-music.ac.jp/music_school/



栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）

（前号までの未掲載分、順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの）

●横山 緑（平成16年大学卒ピアノ専攻）

イモラ国際ピアノアカデミー（イタリア）を首席で修了、Diploma di Meritoを授与される。イタリア政府国費留学生に選ばれ、2008年10月にフィレンツェ国立ケルビーニ音楽院大学院に首

席で入学。

●赤塚 太郎（平成17年大学卒ピアノ専攻）

平成21年度文化庁新進芸術家海外研修員（専門：歌曲伴奏）としてドイツに留学。

●櫻井 香織（大学3年次在学フルート専攻）第11回 “万里の長城杯” 国際音楽コンクール 管楽器部門 大学の部 第1位入賞、中国駐大阪総領事賞受賞 ●稲永 陽子（平成19年大学卒マリンバ専攻）第11回 九州音楽コンクール 管・打楽器部門 一般クラス 審査員特別賞受賞（最優秀賞なし） ●二井田 ひとみ（大学3年次在学トロンボーン専攻）財団法人練馬区文化振興協会 第24回 新人演奏会出演者オーディション 金管楽器部門 優秀賞受賞 ●齋田 瑞樹（大学1年次在学打楽器専攻）第11回 “万里の長城杯” 国際音楽コンクール 打楽器部門 大学の部 第2位入賞（最高位） ●松井 啓多（大学2年次在学トロンボーン専攻）第11回 “万里の長城杯” 国際音楽コンクール 管楽器部門 大学の部 第2位入賞 ●近藤 麻紀（平成4年大学卒ピアノ専攻）2009年 岐阜国際音楽祭コンクール アンサンブル部門 専門コース2台のピアノ 第3位入賞、審査員特別賞受賞 ●澁谷 綾佳（大学1年次在学クラリネット専攻）／●高岡 真真（大学1年次在学クラリネット専攻）／●西山 杏里（大学1年次在学クラリネット専攻）／●長谷部 玲奈（大学1年次在学クラリネット専攻）／●松永 唯（大学1年次在学クラリネット専攻 本高等学校卒）第6回 クラリネットアンサンブルコンクール 一般B部門 第3位入賞 ●増淵 美恵子（大学4年次在学ピアノ専攻）第3回 栃木県ピアノコンクール ソロ部門 C級 第3位入賞 ●船橋 登美子（平成5年大学卒ピアノ専攻）第17回 日本歌曲コンクール 作曲部門 優秀賞受賞 ●羽根 玲夢（大学3年次在学作曲専攻）第16回 全日本ジュニアクラシック音楽コンクール 作曲室内楽部門 大学生の部 第4位入賞（1位～3位なし） ●田中 真理子（大学3年次在学ヴァイオリン専攻 本高等学校卒）第11回 “万里の長城杯” 国際音楽コンクール 弦楽器部門 大学の部 第4位入賞（1位なし） ●林 佑美（大学2年次在学ピアノ専攻）第47回 北九州芸術祭クラシックコンサート 一般の部 奨励賞受賞 ●井上 知美（大学4年次在学声楽専攻）第16回 全日本ジュニアクラシック音楽コンクール 声楽部門 大学生の部 奨励賞受賞 ●井上 巧（大学2年次在学トロンボーン専攻）第16回 全日本ジュニアクラシック音楽コンクール 金管楽器部門 大学生の部 奨励賞受賞 ●木島 和保（平成18年大学卒音楽教育学科ピアノ専攻）第13回 ペトロフピアノコンクール ピアノ連弾部門 奨励賞受賞 ●中山 優美（大学2年次在学フルート専攻）／●山口 睦美（大学2年次在学フルート専攻）第10回 静岡県フルートコンクール 重奏一般A部門 奨励賞受賞 ●桑澤 愛菜（大学1年次在学ピアノ専攻）第9回 ANP ルブリアン・フランス音楽コンクール 審査員賞受賞 ●羽根田 敦子（昭和55年大学卒声楽専攻）奏楽堂日本歌曲コンクール 第20回 歌唱部門 入選 ●杉山 知勢子（昭和40年大学卒声楽専攻）奏楽堂日本歌曲コンクール 第20回 歌唱部門 奥田良三賞受賞 ●後藤真希子（平成16年大学卒作曲専攻）奏楽堂日本歌曲コンクール 第16回 作曲部門 入選 ●河本美音（大学3年次在学ピアノ専攻 本高等学校卒）第18回 日本クラシック音楽コンクール 全国大会 ピアノ部門 大学の部入選 ●石原 華奈子（大学3年次在学クラリネット専攻）／●大橋 奈那美（大学3年次在学クラリネット専攻）／●寺田 香織（大学3年次在学クラリネット専攻）／●前島 彩香（大学3年次在学クラリネット専攻）第6回 クラリネットアンサンブルコンクール 一般B部門 入選 ●堀部 祥子（平成19年大学卒ピアノ専攻）第11回 “万里の長城杯” 国際音楽コンクール ピアノ部門 一般Aの部 入選 ●白須 朋子（平成8年大学卒声楽専攻 本大学院修士課程修了 本大学院博士課程3年次在学）第146回 日演連推薦新人演奏会（札幌）オーディション（社団法人日本演奏連盟主催）合格 ●筒井 香織（平成8年大学卒クラリネット専攻 本大学院修士課程修了）／●新井 庸子（平成3年大学卒ピアノ専攻）第24回 コンセール・ヴィヴァン新人オーディション 室内楽部門 合格 ●新田 翠（大学4年次在学ピアノ専攻）埼玉県音楽家協会新会員募集オーディション 合格、同協会新人演奏会に出演 ●福山 恵里香（本高校3年次在学フルート専攻）第25回 かながわ音楽コンクール本選 フルード部門 高校生の部 入選、第5回 仙台フルートコンクール 高校生部門 入選 ●南 沙紀（附属多摩音楽教室在室 相模女子大学高等部2年生）第16回 全日本ジュニアクラシック音楽コンクール ピアノ部門 高校生の部 審査員賞受賞 ●平澤 彩夏（附属江古田音楽教室在室 淑徳小学校3年生）第11回 “万里の長城杯” 国際音楽コンクール ピアノ部門 小学校Bの部 第4位入賞（2位なし） ●鎌田 大翔（武蔵野音楽大学第一幼稚園在園）第18回 グレンツェンピアノコンクール 関東大会 幼児Aコース 銀賞受賞



武蔵野音楽学園創立80周年記念 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、本年迎えた創立80周年を記念して、福井直秋記念奨学基金、演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々からご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。 学校法人 武蔵野音楽学園

※ご芳名(五十音順)は、平成21年5月12日現在です。それ以降の方は、次号に掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきます。何卒ご了承ください。

【同窓生】

秋山紀夫様 東裕子様 阿部千春様 阿部満智子様 新井規夫様 五十嵐典子様 池内喜多子様 池田松洋様
石井萬智子様 石川妙子様 泉玲子様 板垣千穂子様 伊藤顕裕様 伊藤喜久子様 犬木瑛子様 井上奏様 井上慶子様
井上聰様 井上敏子様 井上美恵子様 井上百合子様 猪瀬奈緒子様 今井真理子様 上原正子様 上村由利様
打越孝裕様 内野公子様 鶴木淳子様 江崎順代様 鮎澤俊雄様 大久保優美子様 太田昭恵様 大竹香奈美様
岡井奈美子様 岡田昭浩様 尾形陽子様 小沢良江様 小田厚子様 落合雄大様 小野裕子様 恩田文江様 影山維昭様
柏村和可子様 加藤都也子様 金倉典子様 金谷方子様 上谷よしみ様 川島佐紀様 北島直子様 儀間朝次様
久保英俊様 久保田敬子様 栗山京子様 黒田満里様 桑原長子様 高尚美様 小島昇様 五所野尾信子様
五東由衣様 小林須美子様 小林紀子様 小森健兒様 齊藤いく子様 齋藤江美子様 阪野淳子様 向阪美智子様
佐々木恵美子様 佐々木法子様 佐藤めぐみ様 志賀訓子様 重松六郎様 柴垣節子様 渋谷美智子様 嶋田泰子様
島本洋子様 清水幸子様 志村裕子様 下道ヨシ子様 下村裕子様 管田久仁子様 杉浦桂子様 菅生和代様 関裕子様
関美智子様 關根妙子様 曾我部美沙子様 高木美香様 高杉美月様 高野光子様 高橋ユカリ様 武田洋史子様
龍田直子様 立野了子様 田中昭徳様 田中星治様 田辺伸子様 谷尚憲様 近間浩美様 土井浩様 徳王雅美様
戸谷玲子様 豊田あい子様 内藤トミ様 内藤花様 永井幸江様 永田伸子様 永沼美紀様 中村昌枝様 中村昌代様
長柄弘道様 名越侑子様 長谷川令子様 波多野溪子様 馬場めぐみ様 林裕子様 林栄様 原源郎様 平井邦子様
平野林様 福井真理子様 福原明博様 藤川淳子様 藤本勝子様 堀口道子様 堀子孝英様 前田栄一様 増澤公子様
町田美香子様 松浦清子様 松浦良治様 松尾信子様 松澤道子様 松村美和子様 馬渡芳子様 萬田充秋様
三上直子様 宮瀧真佐子様 向井正子様 武藤誠様 森雅子様 森岡翠様 山岡博子様 山口美代子様 山中源子様
山廣絢子様 山廣みほ様 山本せい子様 山本文子様 湯川奈美様 由利尚子様 吉崎憲治様 吉田種雄様 渡木美枝様
渡辺綏子様

【在学生・在校生ご父母】

天野研様 荒井亮二様 石井淳一様 石田康市郎様 大山浩様 刑部光太郎様 織間正人様 勝山裕二様 加藤哲久様
久保山美津子様 河野光則様 小林良夫様 小松平八様 小山照美様 櫻井伸一様 佐々木正様 清水晃様 清水敏之様
新造剛様 鈴木正博様 高橋直人様 高山勝行様 武知公雄様 角田裕孝様 中村広様 野尻岩雄様 平田辰哉様
松本高晴様 三国英光様 毛利信之様 山本明広様

【役員・教職員・一般・他】

阿久津三智子様 Ian Cameron McMicking様 石多正男様 石丸雅二様 井上順平様 今泉統子様 今川映美子様
上蘭明様 宇野周子様 大竹亮様 大畠ひとみ様 岡崎悦子様 岡崎耕治様 奥田操様 加藤雄一様 金倉えりか様
金倉英男様 加納マリ様 川久保芳江様 川村ゆみ様 神田美方子様 岸本力様 清野美佐緒様 久保田彰子様
黒瀬美奈子様 黒田彰様 小池ちとせ様 高坂朋聖様 小酒理恵子様 後藤基裕様 後藤れい子様 小林五郎様
小林とせ子様 小林秀夫様 近藤政伸様 近藤弘様 佐伯真弥様 澤本恒夫様 鹿野章人様 重松聡様 重松万里子様
須田寔様 関千代美様 平良栄一様 高橋和義様 高橋美智子様 建部美帆様 谷友博様 田村明子様 田村彰子様
塚越淑子様 辻美禰子様 波多江さなえ様 原田知子様 播博様 日高正枝様 福井直昭様 福井直敬様 福本健一様
星野佳正様 町田雅彦様 松橋眞澄様 丸山忠璋様 箕田幸朗様 宮岡千栄子様 宮崎幸次様 宮崎道子様
宮澤晴子様 山城浩一様 横地千鶴子様 横山朋加様 横山修二様 渡邊規久様 (他に匿名を希望される方69名)

平成22年度入学試験要項請求について

武蔵野音楽大学音楽学部第1年次、武蔵野音楽大学附属高等学校の平成22年度入学試験要項は、本学江古田キャンパスで取り扱っています。

要項は無料で配付しますが、郵送ご希望の場合は、氏名、住所、電話番号、および大学、高校の別を明記し、送料の実費分(大学390円・高校240円)の郵便切手を同封して下記、広報企画室宛にご請求ください。なお、夏期受験講習会受講の方には、講習期間中に配付します。

●お問い合わせ・請求先

武蔵野音楽学園広報企画室 〒176-8521 東京都練馬区羽沢1-13-1 電話 03-3992-1125
学園のホームページ、携帯サイトからも請求ができます。
<http://www.musashino-music.ac.jp/> 携帯サイト <http://musaon.jp/>

編集後記

本学の創立80周年とメンデルスゾーン生誕200年が重なり、80周年記念行事の中にもメンデルスゾーン関係の講演・演奏会が行われます。巻頭を飾っていただきましたのは「日本メンデルスゾーン協会」理事長の三田先生。音楽ご一家の暮らしぶりから、含蓄ある文章をいただきました。

平成21年10月1日までの公開講座・演奏会のお知らせ

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会	7月 5日 15:00	郡山市民文化センター 大ホール	¥1,500〈全席自由〉
指揮=レイ・E. クレーマー	7月 7日 19:00	りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館	コンサートホール
曲目=2009年度全日本吹奏楽コンクール課題曲 他	7月15日 18:30	東京芸術劇場 大ホール	一般¥1,500/小中高¥1,000〈全席自由〉
武蔵野音楽大学室内管弦楽団演奏会	7月10日 19:00	日本大学カザルスホール	A席¥2,000/B席¥1,500〈全席指定〉
指揮=クルト・グントナー			¥2,000〈全席自由〉
武蔵野音楽大学インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ			
世界の名教授たちによるスペシャル・コンサート			
堀内康雄バリトン・リサイタル	7月21日 19:00	練馬文化センター 小ホール	¥3,000〈全席自由〉
共演=ソプラノ:松本美和子 ピアノ:三ツ石潤司			
曲目=モーツァルト:歌劇《フィガロの結婚》より“三尺、四尺、五尺”、ヴェルディ:歌劇《椿姫》より“プロヴァンスの海と陸”、歌劇《シモン・ボッカネグラ》より“再会の二重唱” 他			
口パート・ダヴィド・ヴィッチ(Vn)&ケマル・ゲキチ(Pf) デュオ・リサイタル	7月23日 19:00	練馬文化センター 小ホール	¥3,000〈全席自由〉
曲目=ベートーヴェン:ヴァイオリン・ソナタ 第7番 八短調 Op.30-2、イザイ:無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第3番 二短調「バラード」Op.27 他			
フルート講座	7月27日 18:00	モーツァルトホール(江古田)	¥1,000〈全席自由〉
講師=マクス・ラリュー			
武蔵野音楽学園創立80周年記念 日本・ハンガリー国交回復50周年記念			
武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会			【日本公演】
指揮=カールマン・ベルケシュ	9月 8日 18:30	バツハザール(入間)	¥2,000〈指定席〉
ピアノ独奏=本学学生オーディション合格者	9月 9日 19:00	東京オペラシティ コンサートホール	¥2,000〈全席指定〉
竹中千絵(大学4年)〈8・24日〉	9月12日 15:00	石川県立音楽堂 コンサートホール	一般¥1,500/小中高¥1,000〈全席自由〉
荒井茉莉奈(大学3年)〈9・12・13・25・26日〉	9月13日 15:00	富山市芸術文化ホール オーバード・ホール	一般¥1,500/小中高¥1,000〈全席自由〉
独唱=リスト音楽院学生			【ハンガリー公演】
曲目=リスト:ピアノ協奏曲 第2番 イ長調	9月23日	ブダペスト:リスト音楽院 大ホール	
コダーイ:歌劇《ハーリ・ヤーノシュ》より	9月24日	ベーチ:ベーチ大学ホール	
チャイコフスキー:交響曲 第6番	9月25日	デブレツェン:ケルチェイ・コンファレンス・センター	
口短調 Op.74「悲愴」 他	9月26日	ジュール:ヤーノシュ・リヒター・コンサートホール	
	9月27日	タタバーニャ:ヤーサイ・マリ・シアター	
武蔵野音楽大学室内合唱団演奏会	9月30日 18:30	ベートーヴェンホール(江古田)	¥1,000〈全席自由〉
指揮=栗山文昭			
武蔵野音楽大学附属高等学校音楽科 在校生と新卒業生によるコンサート			
	10月1日 18:30	王子ホール	¥2,000〈全席自由〉
お問い合わせ:武蔵野音楽大学附属高等学校 TEL. 04-2932-3063			

お問い合わせ ●武蔵野音楽大学江古田キャンパス演奏部 TEL.03-3992-1120 ●武蔵野音楽大学入間キャンパス演奏部 TEL.04-2932-3108
 ※チケットは武蔵野音楽大学ホームページ <http://www.musashino-music.ac.jp/> でも予約ができます。
 ※講師の病気、その他やむを得ない事情により、出演者・曲目等を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

平成21年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 夏期講習会のお知らせ

講習会名	実施期間	申込受付期間	会場
高校生のための音楽大学受験講習会	第1期 7月 28日~7月31日	7月1日~7月14日(消印)	入間 キャンパス
	第2期 8月 2日~8月 5日	7月1日~7月16日(消印)	
中学生のための高校音楽科受験講習会	7月28日~7月30日	7月1日~7月16日(消印)	江古田 キャンパス
免許法認定講習	7月25日~8月 5日	7月3日~7月14日(消印)	
社会人のための夏期研修講座※	7月30日~8月 1日	7月3日~7月18日(消印)	

※社会人のための夏期研修講座は、下記のⅠ・Ⅱより各1講座、Ⅲより2講座を選択します。

- Ⅰ ●中学生・高校生のためのピアノ指導法 ●声楽指導法(日本歌曲、響きと表現、ヴェルディ “イル・トロヴァトーレ”) ●編曲法の実際(ピアノ曲を吹奏楽に編曲するための基礎知識) ●音楽科指導の実際(中学校教員を中心とした、教育関係法規や新学習指導要領の理解と年間指導計画の作成、評価)
- Ⅱ ●小学生のためのピアノ指導法 ●器楽合奏(打楽器アンサンブルの指導法) ●ソルフェージュ(基礎) ●教材研究(ピアノ)
- 合唱指導 ●講話(音楽史における和声の変遷、音楽と言葉) ●カール・オルフの音楽教育 ●個人レッスン(ピアノ、フルート、リコーダー、声楽のうちから1種類を選択) ●パイプオルガンのたのしみ「音の組合せをメモリーする」 ●音楽療法入門 ●器楽学入門(ヴァイオリンの歴史)

※上記の他に行われる演奏会は、受講者全員を対象としています。

※実施日程が昨年と変更となっている講習会があります。詳細は要項でご確認ください。

◎講習会要項の請求は、武蔵野音楽学園広報企画室(TEL.03-3992-1125)またはホームページにてお申し込みください。(要項は無料、郵送料は学園が負担します)ホームページ:<http://www.musashino-music.ac.jp/>

弦楽四重奏用楽器セット (ヴァイオリン2本・ヴィオラ・チェロ)

宮本金八作 1934年 日本 長さ59cm・59cm (Vn)、65cm (Va)、123cm (Vc)

「宮本金八君。形を模倣すると永久にも
のの心を捉えることはできない。また、作
るということにのみ執心すると決してもの
の真をつかむことはできない。これは私の
創作に対する信条のひとつです。作るの
ではなく生み出してください」——大正12年、
作曲家山田耕筰は宮本金八にこのような手
紙を贈り、ヴァイオリン製作の真髄を極め
るよう励ました。

宮本金八は、大正から昭和にかけて多く
の作品を残した、わが国におけるヴァイオリン
製作の草分けである。教本も無く師匠も
不在の時代にあって、独学でヴァイオリン製
作の技術を習得したのにもかかわらず、彼の
作り上げた楽器は、多くの著名な演奏家か
ら高く評価された。当時来日したハイフェッツやクライス
ラー、フォーヤーマンなどが宮本の楽器に賞賛の言葉を残し、モジレフスキーは生涯を通して宮本製作のヴァイオリンを3本愛用した。

ヴァイオリン製作において宮本は、単に外国製品の模倣に終わることなく、常に自身の個性を生かすよう努めた。そのため彼の楽器には独自のスタイルが確立されている。のちに宮本はこの「個性への開眼」こそが、自分のヴァイオリン製作で最も重要な転機であったと述べているが、まさ



に山田耕筰の助言が実を結んだ瞬間であったといえよう。

写真の弦楽四重奏用セットは、宮本金八自身が最高傑作として生涯手放さなかったものである。この楽器を引き継いだ宮本敏彦、紀ご夫妻は、星城大学教授の武田洋平氏を通して、平成12年にこの貴重なセットを本学に寄贈した。このセットは厳選された同一の素材から作られており、本学ベートーヴェンホールでの受贈記念コンサートでは、4本の楽器の響きがみごとに融合し、満員の聴衆を魅了した。
(武蔵野音楽大学楽器博物館所蔵)

※ 目次 ※

- 音楽のある生活 ①
三田誠広
- 音楽余話 ②
ステージでの緊張をいかに克服するか コンスタンティン・ガネフ
- 音楽の万華鏡 ④
ウェーベルン《交響曲》の日本初演 榎崎洋子
- 特集 創立80周年記念 ⑤
変革しつづける武蔵野音楽学園の80年を語る(第1部)
- MUSASHINO NEWS ⑨
 - ※ 桜の季節の多彩な学園行事
 - ※ 春期公開講座シリーズ&演奏会
 - ※ 学園創立80周年記念オペラ公演開催
 - ※ 来年度修士課程にヴィルトゥオーソコースを開設
 - ※ 教員免許状更新講習について
 - ※ 日本高等教育評価機構より認証評価の認定
 - ※ 創立80周年記念図書発刊
 - ※ 武蔵野音楽大学同窓会平成21年度全国総会のお知らせ
 - ※ 幼稚園・附属音楽教室のウェブサイトリニューアル
 - ※ 栄冠おめでとう!(コンクール入賞者等)
 - ※ 武蔵野音楽学園 創立80周年記念 ご寄附をいただいた方々
 - ※ 平成22年度入学試験要項請求について
 - ※ 平成21年10月1日までの公開講座・演奏会のお知らせ
 - ※ 平成21年度夏期講習会のお知らせ

武蔵野音楽大学大学院

博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学

武蔵野音楽大学附属高等学校

武蔵野音楽大学第一幼稚園

武蔵野音楽大学第二幼稚園

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園

附属音楽教室 江古田・入間・多摩

※ 発行 ※



創立八十周年

学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス ●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1
TEL.03-3992-1121 (代表)

入間キャンパス ●〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111 (代表)

パルナソス多摩 ●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1
TEL.042-389-0711 (代表)

<http://www.musashino-music.ac.jp/>

2009年7月1日発行 通巻第90号



携帯サイト
<http://musaon.jp/>